

## 【意見交換の要旨】

### 1 アジア経済

アジアの地域を特定した戦略

アジアでは広すぎる。国、都市をターゲットに戦略的に徹底的に進めることが必要。個々の要素、技術ではなく、システム(都市全体のスマートグリッド等)としてアプローチする。その中で人材の育成や文化交流にもつなげていき、トータルで特定の地域との戦略的な関係を築いていくことが必要。

対中、対アジアビジネスへのサポート

中国においては多くの岡山の企業(180事業所)が活動しており、調達などの関係で、対中、対アジアビジネスへのサポートが大事。

水ビジネス

中国、中東は水の問題がある。日本の水道オペレーションは高い技術水準にある。水ビジネスは日本全体として伸びていこうとしているビジネスであり、岡山としてもぜひ検討を。

物流

今後、物流の重要性が増してくる。水島港をはじめとする物流機能を、全国に発信していけば、その方面での発展戦略が描けるのではないか。

### 2 環境・新エネルギー

水素燃料電池車

新しい水島の活路を探ることが重要。水島には製鉄所、製油所があり、これらから大量の水素が副生されている。環境に優しい次世代自動車として、EVに加えてこの水素を活用した水素燃料電池車の可能性も探るべきだ。

蓄電池

エネルギーは電気に一元化された。今後は電力供給をどうするかだが、現時点では原子力。その後、太陽光の効率をいかに上げていくか。また、電気をいかに持ち運びするか。エネルギー、蓄電池をどう開発するか。

新エネルギー

これからは、風力、太陽光、太陽熱が主流となる。岡山は晴れの日が多い。メガソーラーあたりも視野に入れて検討を。

新エネルギーによるまちづくり

環境に優しいエネルギーを使ったまちづくりも重要。パリではEVと充電設備を整備して、レンタルで好きな時に借りて好きなところへ返せる「オートリブ」というシステムを整備する話もある。環境に優しい、新エネルギーを使った交通システムは岡山が先駆けてやっていく分野ではないか。

規制

規制緩和は財源のない景気対策。また、逆に規制することで新しい市場を生み出すこともある。例えば、新エネルギーの普及など規制を強めることで新しい市場を生み出すことも期待できる。規制緩和や規制強化で、環境分野や中山間地域の資源を守るなどの戦略が考えられる。

### 3 医療・福祉・健康

先端医療分野

先端医療分野は岡山の強みを発揮できる可能性が高い有望分野である。

創業、起業

バイオベンチャーは成果に結びつくまでに長い時間がかかるビジネスである。従って、これを育てるに当たっては、途中の進捗状況をモニターしつつも、長く見守ってあげることが重要。

## 4 中山間・農林水産

### 中山間

中山間をうまく整備していけば、産業振興だけでなく、「美しい」という岡山のイメージとも一致する。

### 都市-農村連携システム

中山間地域の住民にとって「医療・福祉」は生活の要。現在中山間地域に住んでいるお年寄りが、その土地を離れずに住み続けることができる環境整備と、家族・親族をあてにするのではない、都市-農村連携システムづくりが必要。

### 中山間地域の「自立」

中山間地域が「自立」ということはかなり困難。新庄村の心意気あふれる地域づくりや、西粟倉村の資源活用型の地域づくりをはじめ、県内各地域が工夫をこらした自立を模索している。目に触れる地域や、モデル集落は、「がんばれる」地域。もう「がんばれない」地域も多数ある。そこに目を向けなければ、公共性が図られているとは言えない。

### 農林水産業

住民にとって農林漁業は生業であるから、加工・販売も、観光化も、農林漁業自体を成り立たせるための手段である。ともすれば、農林漁業を観光や地域活性化の手段としてしまいがちだが、それだと奥行きのない観光や地域活性化になり、長続きしない。

「大きな」農林漁業だけではなく、「小さな」農林漁業の育成・支援も必要。「大きな」農林漁業については、たとえば農業では、遊休農地の解消のためにも、受委託の支援が必要だ。

定年帰農者や地元高齢者の農・漁業は「小さな」もの。また、農・水産物の加工・販売起業も、大きなものを目指したのはごくわずか。しかし、農林漁業の担い手としては重要。特に起業活動による農産加工物の販売額は、伸び続けている分野であり、地域雇用にもつながっている。

### 食糧

今までのようなやり方では、将来、食べるものがなくなる。例えば、家畜が食べる飼料は化学工場で作るなどの新しいやり方を考えなければ、我々が食べるものがなくなる時がやってくる。資源、エネルギー、食物、今までにない新しいやり方を考えないと、豊かさを維持できなくなる。

## 5 人材育成

### 「グローバル人材1万人計画」

「グローバル人材1万人計画」を考えて欲しい。海外からだけでなく、海外へも出て行く、双方向での交流。地元企業による基金で奨学金を創り、基金を利用した学生に優先的に企業にアプローチできる制度を創る。県よりも地元の企業、県民が参加して基金を創る。

### グローバル人材の育成

対アジアのベースは人材の育成。岡山は大学も多いのでその特長を生かした取組を考えて欲しい。一つは、海外から先生を多く招いて英語の授業を行う、二つは海外から留学生をたくさん受け入れ、異文化との接触の機会を増やす。別府の立命館アジア太平洋大学ではこうした取組が行われており、就職内定率ほぼ100%。街も若者が多く、非常に活気づいている。

### ソーシャルビジネス

地域活性化の面から考えるとローテクベンチャーも大事。子どものケア、老人のケアなどについてビジネスとして進める事業はいろいろなところで取り組んでいると聞いているが、岡山でも商店街の活性化に結びつけながら、関わる人を増やし、内発的な企業を育てる意識も必要。

### シニアの活用

日本の中で技術をもったシニアを使う視点を広げていくべき。アドバイザーとして活用する。

## 6 その他

### 岡山のイメージ

今は高度成長期のように、日本全体を底上げしていくという時代ではなく、地域が先導する形で引っ張っていく時代となっている。どの地域が何を引っ張っていくかが今一番問われている。

岡山県は素晴らしい資源に恵まれている。だが、十分に生かしているだろうか。また、岡山県のイメージは何だろうか。これについて、戦略会議を通じて真剣に考えていく必要がある。

### 情報発信

大阪、関西からみたら岡山は「美しい」、「住みやすい」。そういう特長を前面に出して進めることが必要。また、岡山空港の利便性が知られていない。いろいろな意味で岡山でやっていること、優れていることをもっとPRしてもいいのではないか。